

【規格名（和名）】

臨床検査マスター

【規格名（英名）】

Laboratory Test Code Master

【規格の目的、概要】

多くの病院では臨床検査コードに独自のコード体系を採用しており、地域連携に際して、医療機関の間で検査結果の共有が困難な状況がありました。

そこで（財）医療情報システム開発センターでは関連諸団体との協力を得て、検査項目をより正確に表記可能とした臨床検査項目分類コード（JLAC10 コード）を用いた臨床検査マスターの開発を行いました。

このマスターは、検査センターや他の医療機関との間で情報連携が適切に行えるようにするだけでなく、医療機関内で行われる臨床検査をオーダから会計まで一元管理できるように、標準化された検査項目コードと社会保険診療報酬支払基金の提供するレセプト電算処理システムにおける診療行為コードとを対応付けしています。

臨床検査マスターは Excel ファイル（97-2003 ブック形式）で提供され、以下のシート構成になっています。

(1) JLAC10 要素コード表

日本臨床検査医学会が定めた JLAC10 の 5 種類の要素コード表（*）を取り込んでいます。

*分析物コード、識別コード、材料コード、測定法コード、結果識別コード

<http://www.jslm.org/books/code/>

(2) 診療行為マスター

厚生労働省保険局が運用する診療報酬提供サービスでの医科診療行為マスターを取り込んでいます。

<http://www.iryohoken.go.jp/shinryohoshu/downloadMenu/>

(3) 検査項目コード表

JLAC10 要素コードの存在する組み合わせのうち、利用頻度の高い検査項目を収

容しています。

なお、検査項目コード表には繁用的な検査項目について JLAC10 コードが記載されていますが、そこに適切なコードが見つからない場合には、JLAC10 要素コード表を直に参照してコードを選び、15 桁あるいは 17 桁を作成することができます。

【規格の適用領域】

本マスターは以下の領域に適用できます。

- ・病院内基幹システムー臨床検査システム間インタフェース
- ・医療機関ー検査センター間インタフェース
- ・医療機関連携システム共通インタフェース
- ・自施設の検査項目コードと JLAC10 コードとの対応表作成支援

【関連他標準との関係】

本マスターは下記の規格等を取り込んでいます。

- ・日本臨床検査医学会 臨床検査項目分類コード（JLAC10）
- ・社会保険診療報酬支払基金 医科診療行為マスター

【規格の入手方法】

一般財団法人医療情報システム開発センターからダウンロードできます。

<http://www2.medis.or.jp/master/kensa/index.html>

【メンテナンス状況】

臨床検査マスターは、日本臨床検査医学会検査項目コード委員会、社会保険診療報酬支払基金等の協力を得ながら医療情報システム開発センターが維持管理を行っています。

診療報酬点数が新たに付加された検査や、医療機関や検査センター等のユーザ側から追加要望のあった場合のほか、新たに承認・認証された体外診断用医薬品について、その添付文書に基づき JLAC10 を付番し、マスターに反映しており、月一

回程度のペースでマスター更新が行われています。

また、2012年6月からは、日本臨床検査薬協会（JACRI）、保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）、日本医療情報学会（JAMI）、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）、日本衛生検査所協会（JRCLA）、および日本臨床検査医学会（JSLM）と共に「臨床検査項目標準マスター運用協議会」を設立して、JLAC10及び臨床検査マスターの問題点の改善とマスターの普及等を目的とした活動を展開しています。

【現在の改版状況】

2016年3月1日現在の最新版は Ver.2.45 であり、17桁コードには 6,082 件の検査項目コードが収載されています。